

おかげさまで、弊社は、本日10周年を迎えることができました。

これもひとえに皆様のご支援とご指導の賜物と、心より厚く御礼申し上げます。

BFSニュースレター

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

2010年7月5日発行

Vol. 14, 第14号

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

株価チャートで儲けることはできない

株価チャートを使って儲けることはできるのでしょうか。株価チャートは、過去の株価の動きをグラフにしたものです。このチャートを見て、これからの株価を予想して儲けようとするのです。日本には、チャートを分析するアナリストの資格まであるくらいですから、チャートを分析すれば儲かると考えているのでしょうか。

チャートを見ていると、これからの動きがわかるような気になってきます。上昇ラインがしばらく続いていれば続きそうに見えるのです。あるいは、ここしばらく上下一定の範囲内で動いているならば、しばらくはその範囲内の動きになるだろうと思えてきます。高値を更新すれば新値抜けでチャートでは強気サインが出たとか、安値を更新すれば底割れでチャート面ではまだ安くなるといったコメントもよくあります。

結論から言いますと、過去の値動きは、これからの値動きを予測できません。いわば、1分先は未知の世界で、値動きがどうなるかは誰にもわからないのです。

会社の中味も知らないで、チャート一本で株式投資をする人もいます。また、トレーダーは、スリークリーンをデスクに何枚ももって、チャートを見ながら売ったり買ったりする姿をよく見ます。

しかし、チャートは過去の動きの記録に過ぎません。そこから、先の値動きを予測しようとするのは、占い師(素人を含む)がこれからの運を占っているようなものです。

チャートの動きを予測してその読みどおりになりますと、やっぱりそうだったということになり、チャートを読むのに意味があるということになるでしょう。しかし本当は、単なるまぐれに過ぎないのです。



人間は、うまくいった話は言いたくなりますが、悪い話は積極的にしようとしません。うまくいった話だけが一人歩きすることになります。そして株価チャートはあてにならないということになるのです。

チャートを見てコメントした記事の結果を、2,3ヵ月後に実際の動きと比べてみたことがあります。全く逆の動きをするものがあったり、はるかに高くなったり、抵抗線を突き抜け、どんどん安くなったり、全くばらばらで、思わず笑ってしまうほどのものでした。

チャートで儲け続けた人はいません。何回かやっていたらうまくいくこともあるでしょう。しかし長くは絶対に続きません。

民間医療保険の「先進医療特約」

最近「先進医療特約付」民間医療保険を営業マンが勧めるケースが多いようです。パンフレットには“300万円かかるガンに対する重粒子線治療を全額カバー”と謳われています。

そもそも先進医療とは、大学病院などで実施する先端的医療のうち、健康保険を適用すべきか検討段階の医療技術で、厚生労働省が定める100種類ほどの医療技術のことで、技術料が全額自己負担になるものです。そして「先進医療特約」はこの厚生労働省が定める先進医療のみが給付対象になります。

ところが、多くの人が「保険適用外で全額自己負担となる治療費(日本で未承認の抗がん剤の費用などを全額カバーしてくれる特約」と誤解しているようです。

また、先進医療で100万円を超える高額のものはずか3種類で、実施件数も年に全国で数百件と多くありません。その中の「重粒子線治療」は骨や前立腺のガンに行われますが、胃や腸には照射できません。



先進医療を受ける確率は低く、このため特約保険料は月100円前後と非常に安いのですが、この特約欲しさに、さまざまな不要な特約のついた保険に入るのは本末転倒です。

今月の言葉:天を楽しみて命を知る。故に憂えず。

一天の理法を楽しみ(楽天)、自分の運命を生きる喜びを知るならば、人に憂いはない。(易経)



・BFSのミッションは、お客様とパートナーになり、正しく客観的なプランニングとお客様資産の運用を通じて、お客様を人生のゴール達成に導くことです。

・BFSは、金融機関とは完全に独立して、お客様利益最優先の公正なアドバイスを提供しています。

・BFSは、最新で高度な理論や知識、30年以上のグローバルな豊富な経験、強い倫理観で最高品質のサービスを提供しています。

・資産運用サービスやライフプランニング、BFSについてもっと詳しく知りたい方は、左記までお問合せください。

拙著『今こそはじめよう 外国株投資入門』
日本経済新聞出版社—7月12日発売！

実はこの本は、外国株投資だけでなく、現在の日本の株式市場や企業のコーポレート・ガバナンス、株式のパフォーマンスを外国と対比し、日本の現状の問題点を浮かび上がらせたもので、日本の株式市場を巡る課題を把握する上でも役に立つ本です。

ぜひお手にとってご覧いただければ幸いです。

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒164-0003

東京都中野区東中野4-7-18

岡藤ビル303号

電話：03-5338-9733

携帯：090-4934-3121

FAX: 03-5338-9734

電子メール：info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを—BFSの大切な役割

これからは、住み替えも選択肢—高齢期の住まい No.1

老後をどこで暮らすか「終(つい)の棲家(すみか)選びは、大切な問題です。一定の年齢になりますと、体力、気力が衰え、終の棲家選びもままならないということにもなりかねません。できれば元気うちに、高齢期の住まいを考え、具体的な対応策を考えておくべきでしょう。

高齢期の住まいを考えることは、一方でリタイア後の人生の楽しみ方や資金の問題、どう暮らしをデザインするかなどと深くかかわってくることも忘れてはいけません。

政府も高齢化社会での施策を充実させるべく、高齢者が安心して住める住宅を確保するための「改正高齢者住まい法」が昨年制定され、5月19日には「高齢者円滑入居賃貸住宅」の新たな登録制度が、全面的にスタートしました。

国土交通省の調査では、ほぼ3人に2人は、高齢期に備えた住まい方を検討するべきだと考えています。具体的な方法としては、現在の住宅はそのまま、住宅をバリアフリー対応に改修したり、必要に応じて介護・生活支援サービスを利用したりする考え方の人

が多いようです。

一方で、高齢者向けの賃貸住宅や介護サービスなどが充実した住宅への住み替えを考えている人も少なくありません。また「現在の住居はそのまま」と考えている人も、このような施設への認識が高まれば、今後利用を検討しようとする人も増えてくることでしょう。



そこで、このコラムではシリーズで、高齢者向け住宅の種類、選ぶ上でのポイントや注意点、高齢者向け住宅への国の制度や支援策について、お話ししていきます。